

中国地方 100、200、300 名山

大山(1709 m)、蒜山(1202 m)、三瓶山(1126.2m)、那岐山(1255 m)
道後山(1271 m)、比婆山(1264m)～吾妻山(1238.8 m)

期 日 : 2011 年 (H23) 5 月 3～8 日(祭、金、土、日) 前夜発 5 泊 6 日

山行地 : 広島県西城町、比和町、島根県大田市、岡山県真庭市、鳥取県大山町、智頭町 他

担 当 : 新ハイキング浦和支部本部山行

参加人数 : 29 名 参加費 : 43,000 円

集 合 : 5 月 2 日(月) 大宮 20:00、用賀 21:00 解 散 : 用賀 13:00、大宮 13:40

登山コースおよび行動時間

月日	登山コース および 行動記録
5/2 夜発 ～ 5/3	大宮発 20:00→用賀 21:30→東名・東名阪・中国道・東城 IC→月見ヶ丘駐車場 8:15～8:30・・・岩樋山 9:05・・・道後山 9:30～45・・・大池 9:53・・・月見ヶ丘駐車場 10:30～40→広島県民の森 11:20～11:30・・・比婆山御陵 13:10～20・・・烏帽子山 13:35～40・・・大膳原 14:10・・・吾妻山 14:45～55・・・休暇村 15:15～30→三瓶高原 17:30(泊)
5/4	三瓶青少年交流の家 9:05→東の原 9:15→リフト 9:25～9:40・・・太平山 9:47・・・女三瓶 10:05・・・男三瓶 11:00～20・・・北の原・三瓶青少年交流の家 12:25～13:25・昼食→石見銀山 14:30～16:00→出雲大社 17:30～18:00→松江 18:30(泊)
5/5	宍道ふるさと森林公園 6:00→犬狹峠登山口 7:30～45・・・雲居平 8:35・・・下蒜山 9:20～25・・・フングリ峠 10:15・・・中蒜山 11:10～30・昼食・・・上蒜山 12:30～50(三角点往復)・・・槍ヶ峰 13:15・・・上蒜スキー場 14:30～40→吉備高原 17:10(泊)
5/6	吉備高原青少年自然の家 6:00→大山夏山登山口 7:15～35・・・五合目 8:45・・・大山(弥山)10:25～11:20・昼食・・・五合目 12:10・・・夏山登山口 13:15～30→吉備高原 15:30(泊)
5/7	吉備高原青少年自然の家 8:30→第一駐車場 10:15～30・・・BC コース分岐 10:15・・・大神岩 11:40・・・那岐山 12:30～13:05・昼食・・・AB コース分岐 13:15・・・第一駐車場 14:35～45→京都 18:00(泊)
5/8	京都宇多野 6:00→京都東 IC・名神・東名→用賀 13:00→大宮 13:40

行動記録

一日目 道後山、比婆山～吾妻山 (曇、晴)

今日からいよいよ中国地方の 300 名山を登ると思うと、少々テンションも上がり気味。足慣らしのような道後山を、月見ヶ丘駐車場から 3 班に分かれて歩き始める。春間もない山の様相で、いささか寂しい。それでも、岩樋山から道後山の稜線には、猩猩バカマが彩を添えていた。また山頂からは、春霞の中にうっすらと頭を出している大山が望めた。下りは大池をめぐり駐車場へ戻る。そして、今日二番目の山、比婆山から吾妻山への登山口・広島県民の森へバスで移動する。

足元に深山カタバミの咲く山道に入る。良く整備された樹林帯を歩き始めるが、所々にまだ雪が残っている。比婆山は神話の山で、山頂には御陵が祭られ、古来より信仰の対象となっているとの事。植林の林からブナ林に変わり、いかに



道後山山頂



ミヤマカタバミ

も神話の山らしい雰囲気が出てくる。山頂付近では残雪が夏道をふさぎ道不明瞭となるも、リーダーの判断よく無事にイチイの老木しかも大木の道から山頂へ至る。小さな祠とイザナミ命を祀る比婆山伝説の看板があり、その内容に興味をそそられる。

比婆山を後に不思議な巨岩の多い烏帽子山(1299 m最高峰)をまわり、鞍部から大膳原へと登り返し、吾妻山へ。山頂からは春霞か黄砂か、近隣の山々がぼんやりと望めた。小休止後、休暇村へ下山。30分もかからずバスに乗り込み、今晚の宿へ向かう。



二日目 三瓶山 (晴)

宿を出て三瓶山東の原へ移動する。時間短縮のため、リフトを利用して一気に太平山に登る。主峰の男三瓶から女三瓶、子三瓶、孫三瓶とどのピークも望める絶好の展望台とあって、観光客もここまで上がってきている。時間が許すなら全部のピークをめぐるたいが、今日は女三瓶から男三瓶に登り北の原へ下る。



まだ冬枯れの山という感が強いが、クロモジの花が道中を楽しませてくれる。そんな道を20分ほど登ると女三瓶山に到着、電波塔の立ち並ぶこの山頂、長居は無用と写真タイムのみで、すぐに男三瓶に向かう。子三瓶、孫三瓶等に囲まれた室ノ内の底に、火口原が小さく見える。鞍部から登り返して最高地点の男三瓶山に至る。三角点を有す広々とした山頂でしばし休息、周囲の山々を遠望した後、下山となる。

北の原の高原を目の前にして下りだす。ミヤマカタバミが今を盛に群落を作っている。この山は花の百名山にもなっているが、今では灌木帯が広がり、花も少なくなっているらしい。それでも、よく整備されたブナ林の道をジグザグに下ると、平坦な自然歩道となり、エンゴサクやネコノメソウ、スマレサイシンなどが咲き、花の山の面目を保っていた。また、新緑が色鮮やかに広がり、この広大な三瓶の自然をこれからも残してほしいと思いながら歩く。



昼食を済ませ、世界遺産の石見銀山と出雲大社を見学し、宿泊所へ急ぐ。コテージであったが、いろいろ設備もそろい、気持ちのよい施設でゆっくりできた。

三日目 下蒜山～中蒜山～上蒜山 (晴)

下蒜山登山口犬狭峠より登る。平坦な木道から始まり、すぐ急な鎖やロープの付く階段へと続く。もっともこれは使うことも無かった。何種類かのスマレに励まされながら三合目、五合目へと登る。ようやく草原状の中を歩くようにな



り、下蒜山のピークが見えてきた。絶好の上天気に恵まれ、振り返れば雲海が広がる。足元には花びらを全開にしたカタクリが咲いている。雲居平を過ぎ、七合目、九合目と道標に導かれながら下蒜山山頂へ。行く手にはまだ白く雪を抱いた大山が、中蒜山から続く上蒜山の奥に聳えている。素晴らしい眺めだ。

しばしの休憩後、中蒜山に向かって下りだすとカタクリの群落が見れる。そんなカタクリロードからフングリ峠(たわ、峠の意味か、この辺りの言葉か)を通過、ジグザグの急登となる。40~50分もアルバイトするとようやく傾斜も緩み、広々とした中蒜山に到着。360度の展望で、すぐ目前には上蒜山が形良く、そのルートが見て取れ、我々を招いているかのようだった。ここで昼食を取る。



上蒜山へは一度鞍部へ下り、登り返す。カタクリに交じるキクザキイチゲやイワナシが可愛い。鎖のかかる急登をひと登り、樹林に囲まれた山頂へでるが、続いてその先の三角点を往復する。

下山の尾根の槍ヶ峰からは、今日登った蒜山三山、そして大山や矢筈ヶ岳など、素晴らしい眺望が得られ、大満足で蒜山の最終章を終えた。さらに駐車場脇の桜の大木も見事だった事を追記す。

四日目 大山(晴)

4月下旬まで雪が降ったとの情報に気をもみながら、真っ白なタムシバの咲く中を歩き出す。昨晚の打ち合わせ通り、一人でも落伍者があれば全員で下るとのルールが決められ、CL,SLを始め全員の協力が不可欠となる。

階段状の上りが続く。軽快に歩くが、五合目辺りから残雪が見られる。キックステップで十分対応できる。六合目付近になるとびっしりと斜面に雪が張り付いていたので、各自の判断でアイゼンをつける。この辺りから仰ぐ雪の剣ヶ峰もなかなか素晴らしい。その後は夏道と雪道が交互に続く中、慎重に歩を進め稜線に出る。雪があったので大きな階段が埋められ、かえってよかったかもしれない。天然記念物大山キャラボクの生い茂る木道を行くと待望の山頂、全員無事登頂する。山岳信仰の山、大山は崩落が激しく、弥山から剣ヶ峰、ユートピア小屋の間は通行禁止となっている。

山頂で、一面の雪景色を眺めながらゆっくり昼食を取り、また夏道を下山する。苦勞しながら下る人も見受けられたが、概ね順調に下り、思ったより時間がかからず済んだ。

帰路下山口に近い阿弥陀堂へ寄り道、重要文化財の木造阿弥陀像と両脇待像を拝観、無事登頂の礼をする。下山口ではミヤマカタバミの群落がやさしく出迎えてくれていた。



五日目 那岐山（晴）

蛇淵の滝遊歩道から入る。水辺はオドリコソウ、イチリンソウ、ヤマリソウ、イカリソウなどの花で賑っている。Cコースの小石交じりの道から樹林帯の山道に入る。日本海側特有のニシキゴロモなど相変わらず花に恵まれた登山道を進む。大神岩の巨岩の上に登ると一気に眺望が開け、眼下に日本原高原が広がりなかなか気持ちが良い。徐々に高度を上げアセビの満開の中を登ると、三角点峰に至る。非難小屋の鞍部から那岐山頂上まで気持ちよく歩き、とうとう今回最後の山のピークに立つ。氷ノ山と思しき山塊をながめ、去年の山行を思い出す。風を避けながら宿で用意した弁当を食す。



下山はBコースをとる。稜線を更に進み、Aコースの分岐から桜の林へと下る。眺望の利かない樹林の道をひたすら歩きBCコースの分岐からバスの待つ駐車場へ。所々に山菜が目についた。

今日の宿はもう数回泊まっている常宿。美味しい夕食を楽しみに京都へ直行する。

六日目 帰路（晴）

連休の混雑を避けるため、朝食抜きで早朝出発する。幸いそれが功を奏し、早い帰宅となった。5泊6日という長い行程をリードされた方々に感謝します。

(S記)